



江ノ島参拝の入口であり、鎌倉観光の起点でもある江ノ島駅。江ノ電沿線は多くの文学・映画・アニメの舞台とされてきた。車窓からその面影を探すのも楽しい。

神奈川県 江ノ島電鉄

文・渋谷申博
text by Nobuhiro SHIBUYA



連載 第11回

民営鉄道の
起源を訪ねて
鉄路は何を目指したか

江の島・鎌倉観光を
牽引した120年

鎌倉を訪れる時に必ず迷うことがある。藤沢駅もしくは江ノ島駅から下り（鎌倉方面行き）の江ノ電に乗るべきか、鎌倉から上りに乗るべきか、ということだ。それによって巡る場所が違ってくるからだ。

今回は江ノ電の起源を訪ねる旅であるので、まずは藤沢駅から江ノ島駅を目指すことにした。

江ノ電（当時は江之島電気鐵道）はこの区間の路線で明治35（1902）年9月1日に開業した。

開業当時、江ノ島駅は片瀬停留場といった。江ノ電は全長10キロ（現在）の路線ではあるが、駅数・駅名の変化が多い。たとえば、駅数は現在15あるが、最多の時には40あった。レトロでノスタルジックな印象がある江ノ電だが、時代に合わせて変わってきたのだ。

江ノ島駅より社名の由来となった江の島へ向かう。四季を問わず賑わう江の島だが、この日は早朝であったため参拝者もまばらで、江島神社の三つの宮をゆっくり詣でることができた。

江の島から駅側に戻る。江ノ島駅を通り過ぎ、龍口寺へ。ここは日蓮宗の開祖・日蓮聖人が斬首されそうになった「龍ノ口法難」という事件の跡があり、9月12日の法難会には多くの参詣者が訪れる。江ノ電が



国宝の大仏(阿彌陀如来坐像)は13世紀半ばのもので、像高は約12メートル。奈良の大仏に次ぐ大きさだが、造営は庶民の寄付によってされた。かつては大仏殿もあったが大風などで倒壊したという。



現在の鎌倉駅は三代目。初代に当たる小町駅は鶴岡八幡宮二の鳥居前にあった。二代目まで若宮大路を電車が走ったが、移転により鎌倉駅への乗り入れが実現した。

江の島

龍口寺



江の島に向かう修行僧。江の島の信仰は江島神社が中心となっているが、古来宗派を超えた崇敬を受けてきた。



龍口法難跡に建つ日蓮宗の本山。境内には日蓮聖人が入れられた土牢(御霊窟)もある。

江島神社

鶴岡八幡宮



江の島の3カ所に鎮座する辺津宮・中津宮・奥津宮に宗像三女神を祀る。創建は欽明天皇の御代(6世紀)に溯るとされ、日本三弁財天の一つとしても信仰を集めてきた。



11世紀に源頼義が創建したという。源頼朝は平安京をモデルに鎌倉の街造りを行ったが、御所にあたる場所には鶴岡八幡宮を据え、武家政権の精神的基盤とした。

江ノ島電鉄株式会社

Enoshima Electric Railway Co.,Ltd.

創業 江之島電気鉄道株式会社／
明治33(1900)年11月25日
本社所在地 神奈川県藤沢市片瀬海岸1丁目8番16号
営業路線 藤沢－鎌倉(10km)
<https://www.enoden.co.jp/>

9月1日に開業したのも、この法難会を意識したものともいわれる。

かつては龍口寺近くには龍ノ口停留場があったのだが、現在は廃止されているので江ノ島駅に戻って上り電車を待つ。

江ノ電というと海辺を走る電車のイメージが強いが、路線が海辺まで伸びたのは明治36(1903)年に行合(今の七里ヶ浜駅近辺)まで延伸されてからのこと。以後は海のレジャーと密接に関わりながら発展していった。廃車体を利用したバンガロー(宿泊小屋)を七里ヶ浜に設置したこともあった。

長谷駅で下車して高德院(鎌倉大仏)・長谷寺・御霊神社と鎌倉観光の定番社寺を巡拝。長谷駅の手前にある極楽寺トンネルは難工事であったと思われるが、この開通により、江ノ島方面と鎌倉方面の通行が飛躍的に楽になり、観光の幅が広がった。

小町駅(現・鎌倉駅)まで全通したのは明治43(1910)年のことだが、翌年には横浜電気と合併、さらに大正10(1921)年にはその横浜電気が東京電灯と合併、江ノ電は東京電灯江之島線となった。

経営が現在の江ノ島電鉄(江ノ島電気鉄道)に移ったのは昭和3(1928)年のこと。湘南の観光開発を目指していた江ノ島電鉄が、金融恐慌の影響で合理化を図っていた東京電灯より江之島線を買収したのだ。昭和24(1949)年には鎌倉駅西口に乗り入れることになり、国鉄(現・JR)への乗り換えの利便性も向上した。

私も鎌倉駅で下車して鶴岡八幡宮へ向かった。さて、ここからどこへ行こうか。